



新年のご挨拶

理事長 柿澤善樹

あけましておめでとうございます

新年早々、疫病新型コロナウイルス第六波がやってきました。オミクロン株です。今までより感染力が数段強いが病状は軽い症例が多いようです。どこの老人福祉施設も様々な感染予防対策をとっているにもかかわらず三重県でもかなりの数の施設で新型コロナウイルス患者が発生しています。発生するかしないかは紙一重です。

昨年末、日本では新規感染者数が激減したが、世界では桁違いの感染者数を出していました。アメリカでは今年1月5日、一日で100万人という感染者数です。日本で感染者数が少ない要因を「ファクターX」と呼んでいます。日本では家に入るときは靴を脱ぐとか、お茶をよく飲むからだ、マスク手洗いを徹底するとの意見がありました。昨年12月、日本理化学研究所研究チームは、日本人の約6割が持っているが、欧米人は1～2割しか持たない白血球「HLA-A24」が体内に侵入したウィルスに対し感染した細胞を破壊する「キラーT細胞」を増殖させることを発表しました。だからといって感染予防を怠ってはいけません。今回のオミクロン株はデルタ株の4倍もの感染力です。但し、ウィルス感染症は感染力が強いが症状が軽い変異株の出現を繰り返し終息し一般的な風邪の一つになるとの見解もあります。

又、例年冬になると「ノロウィルス」に気をつけなければいけません。アルコール消毒が無効ですから石鹸での手洗いが必要になります。往還の厨房を担っていただいている給食会社「魚国」の職員、往還の職員は感染ルートである蛸（かき）を生は当然ですが煮込み、フライでも食することが原則禁止されています。

今年は寅年で、私は歳男になります。6回目です。初めての寅年11月の誕生日には稲刈りをしていました。昔は、田植え、稲刈りになると一家総出で行っていました。前回、5回目の時は往還の経営がどうなるのか不安のどん底でした。当時の職員が今もたくさん在籍していますが、その方々は謂わば戦友です。今回はどうなるのでしょうか、疫病コロナを乗り越えているのでしょうか。「五黄の寅」の力で乗り越えるぞ。





職員研修



●11月『標準感染予防策』『感染対策において求められるもの』

ここ数年は新型コロナウイルスの流行により、インフルエンザという言葉を目にするのが随分減りました。マスクを着用する生活が当たり前になったことが要因の1つだと思います。インフルエンザにしても、新型コロナウイルスにしても、感染において留意する基本的な対応は変わりません。こまめな手洗いを心掛けて清潔を保つこと、マスクによる体内に入れないことと周りに広げるリスクを下げる、換気を心掛けることなど。当施設では免疫力が低下されたご高齢者が多く生活されています。私たち職員はより意識して関わっていく大切さを再確認しました。

ご家族様をはじめ来設される皆様にも色々と協力いただきまして、この場を借りて感謝の意をお伝えさせていただきます。特に面会においては、事前の申込や月1回、短時間、マスク着用、ワクチン接種証明書や陰性証明書のご提示など沢山のご協力をしていただいております。そのお陰もあり、今まで感染が起こることなく継続できていると思っております。今後も引き続きご協力をお願いします。



●12月『不適切ケアと虐待』『身体拘束を行ってはいけない理由』

『身体拘束防止の具体策』

職員もひとりの人間のため、ケアに対して日々難しさに直面しています。利用者にとってどのような関わり方が望ましいのか。これまでの人生を歩むなかで色々な経験を得てできあがったその人独自の在り方であり、答えは利用者の数だけ存在するのではないかと考えています。不適切なケアになっていないか、身体拘束をすると起きてしまう弊害を理解しているか、具体的にどのような対応をしたらよいのか、と自分自身に問いかける機会を設けました。「怪我をしてほしくないの、拘束してください」という声もご家族から実際にあります。色々な苦悩を経験された上での言葉であることをしっかりと受け止め、1つずつできることを確かめながら、できる限りご利用者が笑顔で過ごしていただけるよう時間を掛けて関わっていくことが大切であると考えています。

新春お茶会



レク係

新年を迎え、1月7日に新春お茶会を行いました。今年もコロナウイルス感染防止の観点から、職員が各ユニットをまわる形で開催させて頂きました。小規模で行なわれる中、ご利用者に少しでも喜んで頂ける様に心掛けました。実際に喜んでもらう姿を見られて、次のイベントも頑張ろうと励みになっています。





職員挨拶



入所生活相談員 八尾 敏子

明けましておめでとうございます。

雪交じりの年末、年始になりました。寒さが一段と厳しく、お身体ご自愛ください。

さて、往還中は暖房が行き届き、家族様皆様のご協力により暖かい衣装で過ごされています。それでも、体調に変化が来やすい季節ですので、十分に注意させていただきます。

コロナの影響が長く続いていますと、面会の機会が少なく、家族様のお顔をすぐに思い出すことが難しい方も居られます。マスクもしているので余計にだとは思いますが。

早く、面会が自由に出来るようになってほしいものです。それまでは、往還の面会ルールで行います。ご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願い致します。



元旦の富士山を撮影しました♪

入所介護支援専門員 宮脇 もとこ

明けましておめでとうございます。

お正月は夫の実家の犬山に帰り、子供達も集まり久しぶりに賑やかなお正月を過ごしました。普段より子供たち家族とテーブルゲームなどをして楽しんでいますので持って行って、みんなで楽しみ、じゃんけんでお菓子争奪戦をするなど楽しい時間を過ごし、義母も久しぶりにこんなに笑ったわと喜んでいました。

みなさんはどんなお正月をお過ごしになられましたでしょうか？ まだまだコロナも終息せず、以前のような日常生活を送ることはできませんが入所者の方に、少しでも気分転換や楽しみをもって過ごしていただけるよう支援させていただきたいと思います。今年もよろしくお願い致します。



宮脇さんのお孫さん

歯科衛生士 兼 ショート生活相談員 水谷 敦子



明けましておめでとうございます。

今年の1月は息子の大学受験がありますが、我が家の愛犬達（チワワゆめちゃんとチワックスのリムくん）が家族全体の受験のストレスを癒してくれています。

利用者様の口腔ケアはコロナ感染予防にもなりますので、今年も往還は口腔ケアに力を入れて取り組んでいこうと思っております。

コロナの終息も今後まだどうなるかわからず、不安な日々が続きますが、また以前のように利用者様とご家族様が気軽に笑顔で会える日常が戻る事を願っております。



施設長補佐 兼 作業療法士 後藤 勲



明けましておめでとうございます。

昨年末は入所者さんに年賀状を作って頂きました。筆ペンを使って字を書いてもらったり、イラストシールを選んで貼ったり、年賀ハンコを押して作成しました。今年も少しでも笑顔で過ごして頂けるよう、体操やレク、運動とともに、気候が良い時には屋外で少しでも季節や地域に触れて頂けるよう関わっていきます。そして、ご利用者の状態に合わせた関わりを昨年よりも少しでも多く持てるよう努めていきたいと思っています。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



看護リーダー 日美 舞優子



新年のお慶び申し上げます。

特別養護老人ホームにおける医療的ケアを担っておりますが、近年様々な処置・内服薬の管理等医療を必要としている御利用者様が増えていると実感しています。終の棲家として、穏やかに生活して頂けるよう医務室一同お手伝いさせて頂きたいと思っております。本年も宜しくお願い致します。

